

二〇一五年九月二五日

草隠れなるは白露の力石
霧晴れて全容現るる二上山
狛犬のだんごつ鼻に時雨けり
見え隠れする児を追へり芒原
爽やかや婦警のバトントワリング

二〇一五年九月二四日

田仕舞の煙を潜り福祉バス
足湯あり小鳥の湯あり秋うらら
三人のどれが爺やら案山子やら

二〇一五年九月二三日

力石寄せて祀りし宮さやか
うらぶれしゴーヤカーテン秋の暮
秋晴れて淀の潮目のきはやかに
敬老日父の手を引き理髪店

二〇一五年九月二二日

飛び石を踏み惑ひたり零れ萩
父母のしきりに恋し彼岸花
黄金田にしるき夕日の山の影
隠し持つ吾子敬老のプレゼント
葉のむことが日課の秋思かな
秋日洩る樹下大小の力石

豆狸

明日香

明日香

かず

はく子

うつぎ

豆狸

うつぎ

ひかり

満天

菜々

さつき

かず

明日香

うつぎ

有香

はく子

ひかり

二〇一五年九月二二日

秋草も添へて手向けし墓前かな
落とし水四囲に高鳴る力石
防人の歌碑誦してより秋思憑く

二〇一五年九月二〇日

新藁で宮居の土俵造りかな
若者に席譲られし秋思かな
白寿なる師へと感謝の菊贈る
豊の秋ニタ分けしたる大河かな

二〇一五年九月一九日

秋灯下古りし歳時記座右とす
句碑訪へばどっと秋蚊に襲はるる
退院の母爽やかに若返る
昼の虫古刹といへど礎石のみ
群れ蜻蛉ぶつかりそうつぶつからず
指先の勘が命と松手入

手を打てば思はぬ数や稲雀
話しつつ茶を入れ直す夜長かな
干されある浜の漁網に残る虫
薦紅葉攀じる池塘の石垣に

菜々

豆狸

さつき

よし女

満天

菜々

治男

宏虎

豆狸

せいじ

はく子

こすもす

さつき

泰山

泰山

さつき

ぼんこ

毎日句会みのる選・二〇一五年九月二七日